

報告

Dances of the Universal Peace (DUP)

公演会報告

愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語・ポルトガル語圏専攻教授
谷口智子

外国語学部共通科目「各論宗教学」の第3回「祈り」の回にて、世界平和の祈りのダンス (Dance of Universal Peace (DUP)) を伝えているコロンビア人講師、ホルヘ・アルジュン・カレロにワークショップを開催していただいた。

日時: 2023年10月19日(木) 14:15~16:15
場所: 愛知県立大学長久手キャンパス E棟2階多目的交流室

2023年10月19日(木)14時15分から16時15分まで、Dances of the Universal Peace (DUP) の公演会を行った。DUPとは、世界平和の踊りである。世界中の多様な宗教の様々な祈り(例えばイスラム教のコーランやインドの神々への讃歌、アメリカ先住民ホピ族の平和の祈りなど)をそれぞれの特有の言語で歌い、踊るという行為である。日本にやってきたのは、コロンビア人の男性講師ホルヘ・アルジュン・カレラと英国人女性助手のマリア・ゲルグブであった。彼らは日本中を1週間でツアーするために来たので、愛知にも立ち寄っていただいた。

アカペラで歌う場合もあれば、様々な打楽器やギターを用いて伴奏する場合もあった。「宗教学」の受講生54人も参加したので、様々な祈りの歌を歌いながらみなで旋回し、新しい教室クロッカスは大いに賑わった。民族音楽のエドガー・ポープ先生から慌てて借りてきた打楽器やギターで、伴奏の準備もなんとか間に合わせることができた。

アルジュンさんは元々、イスラムのスーフィー(神との合一を得るために旋回するイスラム神秘主義の舞踊)の修行をしていたという。DUPを人々に伝える活動を始めたのも、スーフィズムの延長ということだ。公演会では、様々な先住民の祈りの踊りを体験した。みなで輪になって踊ると、一体感があり、彼我の分け隔てがなく感じた。集団の高揚感、一体感のみがあった。それは世界平和の祭りであり、戦争が起こっている現代でも、私たちは分け隔てなく、差別することなく生きていける。それを体感させるアートワークであった。



写真1 DUPの公演会の様子